

「荏田南地区地域福祉フォーラム」を開催 総務書記 野本徹夫

二月十九日(日)に、荏田南幼稚園にて「荏田南地区地域福祉フォーラム」が開催されました。
本フォーラムも今回で第七回となり、新たな試みとして、会場参加とZOOM参加の併用で実施をし、合わせて四十二名の参加がありました。

「認知症600万人時代に意識しておくべきこと」(定義から治療まで)と題し、横浜新都市脳神経外科病院認知症診断センター部長真鍋雄太医師に講演をいただきました。

講演内容は、認知症とは病名ではなく、何らかの病気により認知機能が障害され、社会的機能が損なわれるようになった病態の総称であり、その病気の原因は多岐にわたり、脳出血、脳梗塞、アルツハイマー型認知症、甲状腺機能低下症、ビタミンB12欠乏などがあげられるとのこと。

また、「物忘れ」は認知症の構成因子ではあるが、規定要素ではない。ゆえに物忘れ≠認知症という理解を捨てる。物忘れのない認知症も存在する。この様に正しい知識を身に着け、認知症フェイクに騙されないことが重要である。

アルツハイマー病や脳血管障害による認知症は予防可能であるが、原因疾患次第では、予防できない認知症も存在するので、「認知症は予防できる!」は、誇大な表現である。

そして、認知症の介護は先ず3Mの排除から、3Mとは、無理・無理・無駄のことである。記憶機能を改善させる薬物は無いのに、薬を飲ませれば物忘れは良くなるという無理解。自分がもう少し頑張ればという無理。成長期の人間ではないのに、三食必要という無駄な意気込み。これらを排除し、

実際のな落としどころを探ることが必要とのことであった。真鍋氏は、神奈川県大学附属病院認知症・高齢者総合内科教授でもあり、難しい専門用語もわかりやすく講演いただき、参加者には、とても有意義な時間となりました。



福祉について

荏田南中学校卒業生 大石 翔也

私は、総合学習や、福祉委員会の赤い羽根募金などをやるまで、高齢者や障がい者の方のことをあまりよくわかっていませんでした。そこで私は、委員会などを通して「福祉」について知りたいと思いました。

私は、まず福祉委員会の赤い羽根募金の使い道について調べてみました。赤い羽根募金は、高齢者や障がい者の食事、機材整備資金に使われていることがわかりました。

次に調べたのは、バリアフリー、ユニバーサルデザインについてです。バリアフリーとは、高齢者や障がい者の社会生活の支障となる物理的な障害や、精神的な障壁を取り除くための施策のことです。例えば、点字です。駅などで見たことがあるのではないのでしょうか。点字は、目の不自由な人が、触れるだけで文字を読んだり、書いたりするときを使う文字です。点字は、触れるだけでなく、目の不自由な人の歩行にも役立っています。それが点字ブロックです。他にも、高齢者や障がい者に役立っているのが、ユニバーサルデザインです。ユニバーサルデザインとは、国籍、年齢、能力などの違いにかかわらず利用できるだけの多くの人に利用できることを目指した設計のことです。例えば、自動ドアです。一回は見たことがあるのではないのでしょうか。自動ドアは誰でも簡単に利用できるユニバーサルデザインの代表例です。

私は、ユニバーサルデザインなど身近にあり、知らないうちに利用していると分かりました。「福祉」の知識がある今は、これから生活する中で、少しでも役に立てることができたらと思います。

100回目のほほえみ交流カフェ 荏田南地区ほほえみ交流カフェ運営グループ

代表 小泉雅二

令和5年3月7日に認知症&予防カフェのほほえみ交流カフェ100回目が開催されました。始まったのは平成26年6月10日。都筑区高齢障害支援課が中心となって活動していた都筑区認知症サポート連絡会が、その年の3月に川崎市宮前区の認知症カフェを見学に行ったのがきっかけでした。(認知症サポート連絡会は、認知症キャラバン・メイト、ケアマネージャー、施設、区の職員などで構成され、認知症サポーター養成講座の企画など認知症理解のための普及啓発活動を行っている会です。)

これなら、私たちの街でも出来るのではと考え、行動開始。開催場所は、都筑ふれあいの丘駅近くの居酒屋「富士見茶屋」を昼間使わせてもらうことになり、区社協や荏田南地区社会福祉協議会の助成金を申請。スタッフも民生委員等が集まりました。

カフェでは、専門職によるミニ講座を通じて、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指し、毎回区役所や地域包括支援センター職員が参加し、身近なところで気軽に相談でき、認知症の兆候を早く発見し相談につなげることが出来る場になっています。また当事者及びさまざまな介護をしている家族のリフレッシュと近隣住民の交流の場なるようお楽しみも企画しています。

平成29年1月からは大丸のライプタウンセンター南集會室に場所を移し毎回40〜50名の参加者が集まりました。令和2年コロナで緊急事態宣言が出され、6回開催を見合わせましたが、参加者からは是非開催を継続してほしいとの声で、新しいスタイルのもと開催を続けました。オンラインでの開催を併用したりもしました。

これまで続けられたのも、参加者の皆様や区役所・区社協・葛が谷ケアプラザ等の関係者の皆様のおかげです。100回目の当日、これらの方々に感謝状をお贈りお送りいたしました。

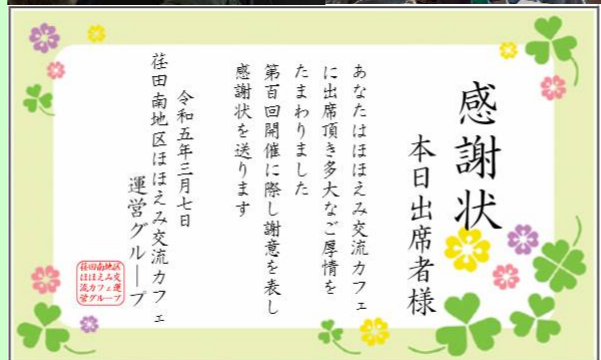
これからも続けていきますので、認知症当事者の方も、認知症でない方も是非来て頂き、認知症になっても安心なまちづくりをしていきたいと思います。

タウンニュース3月16日号でも紹介されました。

開催日時・原則第一火曜日13:30〜15:30

開催場所・藤和ライプタウンセンター南集會室(大丸11)

参加費・100円



「荏田南中・小学校と関わっての雑感」

榎 登志裕

この八年間校長として在職していた荏田南中学校を離れて六年が過ぎた。そして今、縁あって隣接する荏田南小学校に勤めている。つくづくとフラミンゴ色に染まる荏田南地区との深い繋がりに感じている。

中学校在職の時、学校経営の柱を二つ立てた。心のこもった挨拶と感謝する気持ちを育む「オアシス運動」と「地域とともに歩む学校づくり」である。

「地域で育てる子ども」「地域で育つ子ども」この実現は小・中共通の実践テーマでもある。その二つの柱が荏田南小学校でも実践されており、大きな感銘を受けている。まさに、「地域とともに歩む学校」である。

そして今、子ども達が着実に成長できるようにと粘り強く支える教職員の皆さんの熱い情熱を日々強く感じている。

三年間の短い期間で学習や部活動を通し密なる変化を遂げる中学生と、六年間の長いスパンでの学年を超えた連携などによって成長する小学生。中学校の経験だけでは見えなかった多くの光景・体験が、今の自分にとって大きな心の糧となっている。

元気で活動できる今を大切に、今後も趣味である「秘湯巡り」を重ね、再び、地域の方々と「温泉談義」に花を咲かせることができる時が訪れることを強く願っている。

小規模多機能型居宅介護施設

しょうぶ

都筑区荏田南 3-12-14

(荏田高校前下車 徒歩3分)

電話 045-482-7272

デイサービス・訪問介護・泊りが、同じ施設内でご利用頂けます。お気軽に見学・相談して下さい。



深澤りつクリニック 医療福祉相談室

☎ 045-914-4101 メール: soudan@ritsu-c.com

訪問看護ステーションNOA

☎ 045-914-4003 FAX: 045-913-9345

〒224-0003 都筑区中川中央1-28-19 グリーンエージ202

小規模多機能型居宅介護 Harmony House

☎ 045-530-5070 FAX: 045-530-5217

〒224-0033 都筑区茅ヶ崎東2-12-24

どんなことでもお気軽にご相談ください!



通所介護・個室入浴ができる半日デイサービス ペルーガヘルスケアサロン

センター南店 電話 045-532-6516

都筑区茅ヶ崎中央 24-12 ライオンズプラザ港北ニュータウン 201

看護師常駐、医療処置対応。理学療法士と柔道整復師による個別リハビリを行っています。

都筑ふれあいの丘店 電話 045-532-4037

都筑区富士見ヶ丘 16-15 シャトーブランピエール1階

リハビリマシンを使った筋力強化のリハビリと柔道整復師によるマッサージ(可動域訓練)を行っています。

随時見学受付中。介護のこと何でもご相談ください。

担当: 村上・鬼頭



小規模多機能型居宅介護施設

かもいけ

都筑区荏田南5丁目 18-53

(『荏田南』バス停徒歩1分)

電話: 045-942-7961

通い、訪問、泊まりが自由に利用できます。

スタッフ募集中

※介護等について、お気軽にご相談下さい。

